

令和6年度第2回古賀市総合政策検証会議 議事要旨

【開催概要】

開催日時：令和6年11月25日(月)19:00～20:50

開催場所：古賀市役所501～503会議室

出席者：

(委員) 豊貞委員長、文屋副委員長、大庭委員、橘委員(オンライン)、長委員、鶴委員、藤井委員、南委員、宮原委員、吉岡委員、河野委員、占部委員、高野委員

(事務局) 田辺市長、野村副市長、総務部長、市民部長、保健福祉部長、建設産業部長、教育部長、経営戦略課長、まちづくり推進課長、経営戦略係長、経営戦略係員

【議事・要旨】

1. 市長あいさつ	
2. 委嘱書の交付	
3. 委員紹介	
4. 委員長及び副委員長の選出	
5. 審議事項	(1) 第2期古賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和2～6年度)令和5年度実績に関する検証 事前質問 (回答) スクールソーシャルワーカーやカウンセラーが生徒にカウンセリングを行うとありましたが、カウンセリングを受ける生徒はどのような子供が対象になりますか。ということでのご質問でした。まず、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの教育相談につきましては、学校から通信等で保護者に周知されておりまして、保護者が希望すれば面談やカウンセリングを受けることができ、また、学校からの要請に基づきまして、児童生徒や保護者への対応等についてスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーが学校に助言する場合もございます。 カウンセリングの対象となる児童生徒は、例えば、心身の健康や保険、不登校、友人関係や学業や進路等での学校生活での悩みを抱える児童生徒やその保護者が対象となります。 (回答) 質問2につきまして、スクールカウンセラーが学校を巡視などする中で、気になるお子さん等を把握される場合はあると思います。スクールカウンセラーがカウンセリングの必要性があると認識した場合は、学校にお伝えをして、保護者や児童生徒の希望を確認した上で実施されることとなります。 最後に、スクールカウンセラーが学校に常時いるのかどうかについてお答えいたします。常時学校にいるわけではなく、各学校を巡回して、該当する児童生徒あるいは保護者との面談、あるいは学校への助言などを行っているところでございます。

(回答)

2 点目、快生館についてですが、契約は令和 7 年度までです。また、契約が終えた後ということですが、令和 8 年以降につきましては、自走に向けて地権者の方とやりとりを行っているところでございます。

(回答)

続きまして、質問の 3 点目、防災についてということで、電柱の方に海拔表示をしておりますけれども、それとは別に最大何メートル浸水するような表示をつけてはいかがかっていうご意見であったろうかと。こちらにつきましては、まず私ども、浸水の想定区域は、様々な知見を基にいたしまして、国が示しますガイドライン等に沿って策定しております。令和 4 年度にこの市総合防災マップに洪水浸水想定経路を記載いたしまして、全戸に配布しております。また、転入世帯におきましては転入手続きの時にお渡しするようにしております。また、地図情報等につきましても、市のホームページ、それから公式 LINE 等で確認できるようにしております。

最大何メートルで浸水するかというご意見いただきましたが、気象がかなり昔と違って、本当に想定できないような雨が降る場合もございます。現状の防災マップにおきましては、想定はしておりますけれども、想定を超える雨が降る可能性も今後あるという風に思っております。その際に最大何メートル浸水しますというのは、想定することもなかなか難しいというところも実情としてはございます。今後、啓発訓練等々で、この防災マップを活用し身近にあります電柱等々の海拔表示などを意識していただきたいと思います。

基本目標 1

(質問)

谷山に住んでおりまして、ちょうど 4 ページ目のコスモス広場がうちの近くにもあるんです。たまたま、その仕事で、コスモス館の直売所ところで話を聞いたことがあって、この施設の売り上げは年々下がっていったのかなと。今後もこ自分の地元の食材とか、市民の人にとっても重要なところだと思うんですけど、ここはどんどん縮小していったる感じになるのか、それとも何かしら施策として何かありますか。就農される方は増えているので、非常に希望が持てるんですけど、一方でそもそも売り上げが下がっているのも、心配だなと思いました。その辺の施策が具体的にあればご説明ください。

(回答)

コスモス館の売り上げ、現実的には令和 5 年度 39 億円ということで、若干減少傾向にあるということでございます。そもそも論として、いわゆる農家の高齢化がございまして、出荷するものが年々減少していったるというのが実情としてございます。これを受けまして、今現在、コスモス館利用組合というところで協議させていただきながら、いわゆる会員の方が出荷する量っていうのがどうしても減ってきている傾

向でございますので、いわゆる会員でない大規模に作成されておられる農家の方から、ある一定仕入れるというような形で、品数を充実させていくことをご検討していただいているところでございます。

また、農産物等に限らず、隣に観光協会等が行っております、コガボーンもございしますので、そのあたりの相乗効果等も図りながら、来客来館数を増やしていきたいということで、今検討を進めているところでございます。

(意見)

1 点だけせっかく立地として、隣にグリーンパークがあると思ひまして、市民の目から見てもあそこは市場としては年間通して素晴らしい方々が集まってまして、元々あそこは野球とかサッカーとかそういう目的で作られたと思うんですけど、改めて見直していただければ、いろんなイベントをやっております、おそらくあそこの市場を、コスモス館がちゃんと取り込めれば、売り上げが2、3倍くらいになると思います。グリーンパークはおそらく市との協力が絶対的に必要だと思いますので、ぜひ周りの市場としてグリーンパークを取り込んでいただけたらなと思ひました。

(回答)

ご意見ありがとうございます。おっしゃる通り古賀市の全体俯瞰したまちづくりとしては、中心市街地の古賀駅周辺と快生館もそうですけれども、小野地域、そしてこの、古賀グリーンパーク周辺というのも重要な3つの核として捉えてまちづくり進めています。古賀グリーンパークがおっしゃるような、多くの人々が特にスポーツ中心に来られるという状況は、狙ってまちづくりやってきた結果ですけれども、一方で、コスモス館の背景もあって、そもそも厳しい状況にあると。ただし、地産地消で農業振興を図っていくということはうちのまちの風土、これからもやっていくべきことですので、どうやって古賀グリーンパークに人が寄りついたり、回遊性が生まれたりする前提を作るかというのを重点的に近年取り組んでいます。その大きなものの1つが、古賀グリーンパークに近接したエリアに、ピエトロさんの新たな工場が立地するというので、青柳釜田地区、すでに造成終わりましたけれども、あと1年半ほどで工場が2つ、こちら側のオーダー通りにレストランと常態的な工場見学機能を付与するということを会社が約束してくれているというところです。こうしたピエトロさん、そしてコスモス館、おっしゃっていただいたグリーンパークに来られる人々、こういったところの相乗効果を発揮したいと。合わせて付言しますと、実は公共交通網も色々再編しているんですけども、いわゆる小竹地区と新宮中央駅をコガバスいわゆるコミュニティバスのなやつで、結ぶということをやります。新宮中央駅から小竹を経由してこのグリーンパークまで来るという状況を来年1月に具現化をしようとしています。新宮中央駅からこの古賀グリーンパークが公共交通で直結するという状況を生むのも、今申し上げたような文脈でやるところであります。もちろん、そういった仕掛けを年々強くしてるというところです。

(質問)

4 ページの農林業の活性化と持続可能な発展のところの話が、ここの新規就農支援制度ありまして、目標は好調に上回って見えていますので、こちらの取組と新規就農申請をどのようにしてアピールされているのかっていうことと、外国人材であり、UIJ ターンに対しても利用促進っていう考えのもとの制度なのかっていうこと、そして最後に、今ってやっぱり継続するのが大変だと思うんですが、その継続性に関する支援などもあるかなっていうのがちょっと気になりましたのでお尋ねします。

(回答)

新規就農支援制度を利用した就業者数の件についてお答えいたします。基本的には多くは観光農園等での就農者でございます。各々様々な農業に取り組みたいという思いもございますので、それについては農業普及センターとか、あるいは販売等に関して、JA などと情報共有しながら必要な支援を行っているところでございます。やはり今後もやはり続けてもらわないといけないということですので、地域におられる農業経験のある方も含めてそういった相談体制を構築しているところでございます。

UIJ ターンと外国人材の話もありましたけれども、私の認識ではいずれもあると、外国人も地域就農で近年いらっしゃいます。UIJ ターンについて J はわかりませんが、UI は少なくとも私の認識ではいます。この町の規模にしては今の時代背景として、これだけ新規就農していただけてるというのは前向きな状況だと思っておりますが、そもそも農家の高齢化で絶対数は減ってる中ですから、農業就業者全体はもちろん減少しているという厳しい状況にあるということになります。その持続性の担保ですが、新規就農される方には、大体同じ地域や近接する地域の方が、大体アドバイザーみたいになって伴走する状況ができています。あれん方はあれん方がついうけんみたいな話はよく聞きますので、そういう体制には持っていけるかなという風に思っています。ただ、絶対数が不足していますので、持続可能性を高めるために、近々でよくメディアにも取り上げられましたが、スマート農業の推進を施策としては 1 つの手法としてやっているということです。

基本目標 2

この筑前玄界イカフェアについて、ちょっと新しく始まった試みということで、今年が 1 回目古賀市でどのくらいその各店舗で来客数があつたかと、この人数がどのくらい出たのか。なんかしら、観光面でですね、効果があつたと思えるような、なんかそのデータによってあるのかなっていうのも気になって、ぜひお伺いしたいなと。

(回答)

福津宗像とのいのかの取組は古賀の方ではなかなか進んでないというような状況であります。お答えできる数字が上がっていれば 1 番よかったんですが、結局、広域連携による県も関わっている事業で、イカということで、広域的に考えてこの地域イカだろうというところは、着眼としては私もよろしいというか、思っていますが、本市

には漁港がなく漁業がない。一方で、海産物扱うお店は美味しいお店ありますので、そういったお店に我々から協力をお願いして、参加をしていただいて、良いイカを使った料理は出していただいています。ただ、背景として、先ほど申し上げたようなところがありますので、本市の特性優位を活かして、何かイカで特段に他地域に比べて優位性があるという前提ではない中で参加しているというところを ご理解いただけたらなと。

(質問)

古賀市が率先してやってるっていう意味はないですけど、複数の自治体での絡みでもイベントになると思うので、その古賀市のポジション的にはどうなのかなっていうのがちょっと気になって。そしたら、今後も参加店をまず増やしていく予定はないのか。

(回答)

もちろんこのイカをテーマとした広域振興の取り組みが継続するというの、この輪の中で判断していくならば、より魅力ある店舗はたくさんありますんで、参加を働きかけていくというのは古賀市としてももちろんやっていきたい。一方で、イカだけにこだわって広域振興策をするのかというところは、その協議会と言ったかな、その輪の中で、古賀市のより優位性が発揮できるような取り組みを提案していくという責務もあるかなと。

(質問)

快生館の話があって、事前質問にもあったんですね。これはもう質問というよりか、ぜひそのご提案として、要は、令和8年以降、自走していくっていうところのアイデアとして、小野校区の集まりとかで、小野小学校のほたるの宿っていう、もうボロボロの建物とかで集まっています。、要は地域の集まりをぜひ今後、快生館はめちゃくちゃ綺麗なとこだと思うので、解放してもらったり、使っていければ、もう少しお金の持ち方も変わるのかなと思いますので、どちらかというと外部の企業が入ってきて、あまり小野校区の人たちが快生館を知らないの、ぜひ地域の人たちがそこで公民館の代わりに使ってもらおうとかいうのをご検討いただければなと思います。

(回答)

今、企業の方も、自走に向けてですね、例えば温泉だけでも入れるようなサービスを導入されようとしてますので、徐々に、薬王寺だけでなく、近隣の行政区さんとの連携ができればということで進めていきたいと思っています。

基本目標 3

待機児童のところで多いなところについて前回は実績のみなんですけど、何かこう改善策とかありますか。

(回答)

待機児童の関係でございますけれども、出生数、子供の数はやはり年々減ってきております。減ってはいるんですけれども、保育、子育てに関する保護者のニーズは多岐にわたってニーズは増えております。そういった中で、子どもさんを保育所にということになった場合に、施設が足りないというよりは、人材、保育士の確保が難しく、保育士の確保ができれば、随時待機児童の方も解消しているというのが現状でございます。ですので、本市といたしましては、やはり保育士確保に向けて保育所、幼稚園も含めまして取り組みは行っておりますけれども、どうしても年度当初は0で、どんどん子供さんが、随時生まれてこれると、年度内にずっと増加していくというのが傾向として毎年ございます。

(質問)

これ、3月時点で入れなくても、4月になったら全員入れるっていう。で1年経つとと入れるか。

(回答)

1年経つことが、年齢が一歳上がってきますので、そういった面では、保育士の基準等も、年齢が上がれば緩和される部分もあって、4月は待機者0っていうところで、現在、保育園、保育所の方にもご協力いただきながら、待機数0は維持しています。

(質問)

教育環境の充実のということで、夢授業が開催され、福岡銀行も金融機関ということで、参加させていただいております。中学1年生の方たちが興味のある企業のところに5、6人のチームで参加されて、前もって例えば我が社のホームページなんかを見られて、熱心に色々鋭い質問とかをされて、非常に興味持って、仕事のこととか、将来のことに興味を持っていただいているなっていうことで、非常に嬉しい思いをしたところなんです。実はここ最近高校の家庭科の授業では資産形成のお勉強っていうものがあるんですけれども、実は福岡県の高校のところのアンケートでは、金融リテラシーの調査で福岡県は全国39位で、金融リテラシーが低いということが課題として挙げられているっていうことがありまして、福岡県の高校ではいろんな金融機関が出前事業というものをしている状況でございます。我々古賀支店の方も担当が行くんですけれども、そういったところを古賀市の方には横の連携というのがありますので、例えばこう中学校、中学生とかで出前授業とかそういうのがあれば、そういう金融機関の我々の方が、ご協力できることがあれば、今金利が動いている時期でもありますので、若い中学生の時代から、こういった金融リテラシーのところを向上に向けて、何かでお手伝いできることがあればなと思っておりますので、我々にお伝えいただければなと思っております。

(回答)

夢授業などで、大変お世話になっております。まずですね、子どもたちが将来の夢や

そういった希望を抱くために、キャリア教育を進めてるところではございますけれども、それと合わせまして、今ご提案がありました金融リテラシー教育を小さな時から、折に触れて学んでいくことも大変重要であろうという風に思っております。今、いただきましたご意見を持ち帰りまして、学校内などで活用ができることございましたら、またお声がけさせていただければと思っておりますので、検討させていただきます。

基本目標 4

(質問)

すいません、安心して暮らせる町づくりっていうところなんですけど、今回、防災面のところとかわかりやすく色々取り組まれてるではあったんですけども、金融機関ということで、防犯面のところっていうのが気になっていまして。ご存知のように福岡県では 20 年は詐欺と非常に増えておりまして、この 1 週間で被害にあわれるお客様も何人も見てきております。この地区でも実際に ATM で被害が確認をされたとか、そこから警察を名乗って自宅に行って通帳を取られて、暗証番号まで追加されて被害にあっていることが増えてきておりまして、福岡県は過去 10 年で最悪のケースでした。そういった意味では、犯罪が入ってきておりますので、防災と合わせてですね、防犯面のところの強化も確認させていただければと思います。

(回答)

管轄が粕屋警察署であります。古賀市の方ですね、防犯協会で会議を開いたところでございますけれども、その際には、粕屋署の方から来ていただきまして今おっしゃられるように、様々な施策とか、そういうこと含めて啓発をいただきました。今後とも市民の方に啓発をしてまいりたいし、また効果的な啓発方法も含めて粕屋署と連携してまいりたいと思います。

(質問)

周知の件なんですけれども、様々なイベントをされてるようではあるんですが、周知の方法はオンラインあるいは SNS に偏っているのではないかなという風に思っております。例えば市内であれば回覧板含めたところで、市民の方に紙媒体も含めて、周知をすることによって、市民を巻き込んだより良いまちづくりの企画につながるのではないかなと思っておりますので、商工会がある西口にも関わりますので、必ずしもデジタルというような募集の仕方ではなくて、ぜひ今更ですが、紙媒体を使った市民がまちづくりに来るきっかけに繋げてほしいなという風に個人的に思いました。

(回答)

はい、どうもありがとうございます。今、時代はデジタルですけども、やはりそういった紙でちょっと目にするといったところのきっかけも大事だろうと思います。

(質問)

西口エリアについて多分困ってるんじゃないかなと思うんですけど、気になるのは、駐車場がなさすぎる。ちょっとパンだけ買いに行きたいのよね、みたいな方が割と困ってるんじゃないかなって。ちょっと借りるみたいな方もいるんじゃないかなとは思いますが、でも実際のところおおっぴらに使っていいってことではないので、なんかその回遊自体、あそこ色々お店巡りたいけど、いつも駐車場空いてないんだよねっていうことに対する対策とか、今考えてるところがあったりするのかなって。

(回答)

歩きましょうと言っているんですけども、確かに西口エリアで駐車場に限られると。逆に言うと建物なくなって、地権者さんが駐車場にしているみたいなのがあって、それは果たして望ましいのかというのはあるんですが、そもそも商店街のエリア、歩いて回遊するというのが昔から大前提ですね。だから、お店の直近まで車で行くというところじゃないよっていう、否定まではしませんが、中に駐車場がありますんで、ただ、車で行くのが当たり前みたいな感じじゃないんだよっていうことを我々としては政策的に発信をしてまして、それがウォーカブル推進都市になって、国交省のウォーカブルな空間を中心市街地に作ろうと。言っていた西口もそうですし、これから新たな開発をしている東口についてもそうです。

ウォーカブルもキーワードなので、そこのご理解を合わせて広げていく必要があるかなと思います。正直、西口は小さな駐車場が点在しているぐらいの話です。一方で、東口に行けば駐車場がありますよね。開発をしていく過程でも駐車場問題は東口でも生じていきますので、課題認識して色々な検討は水面下では進めているようなところですよ。いずれにせよ、目の前と言うと、例えば東口に車止めて駅渡って西口に行っても大した時間じゃない。東口からリーパスプラザまでの距離はイオンの端から端ぐらいです。ですから平気でみんな歩いているじゃないですか。基本的に歩ける人は歩いているような距離ですから、そのぐらいの感覚で言うと、東口の駐車場に停めて、西口の例えばるるるに行くってそんな距離ではないはずだという意識も合わせて広げていきたいなと。目の前でただ駐車場が不足しているという現実はわかっていますので、きちんと中長期的に手立ては講じたいということで検討進めます。ありがとうございます。

●全体

(質問)

ワークライフバランスの実現について、ちょっと聞きたいなっていうところがあって、ワークライフバランスの丸2のところですね、男性の育児休業取得について努めましたということであるんですけども、家事とか子育て今日室に参加された方っていうのは集計されてるんですけども、実際、育児休業を取得してる人が男性でどのくらいいるかっていうのが、実質どのくらいいるかですね。そういうデータとかって集計されているんでしょうか。

(回答)

申し訳ないですが、企業の取得率まで、こちらの方では把握できておりません。市役所の状況は把握できています。古賀市役所は令和 4 年度から男性職員の育休取得率 100 パーセントになっています。これは様々なマネジメントで取り組んできた結果だと思っています。私が市長就任時は 1 割台でした。ウナギ登りで上がって現状があると。ファザーリングジャパン九州さんとも連携を密にしてまして、ピエトロさんと西部電機さんの本市の育休取得者と人事担当者及び私が一緒に快生館に集まってセッションしています。それぞれの課題だったり、やってることだったりを共有していくと。市役所は気合を入れて、こうやってマネジメントすれば達成できました。おそらくこれは継続するでしょう。当たり前これを継続するような風土を継続したいですけれども、問題は今おっしゃっていただいている民間企業ですね。ちょっと小規模事業者は事情が変わってきますけれども、一定程度以上の事業所においては、やはりこの風土を広げるといふところを次の段階でやらなければいけないということで、公民連携してって考えてたところに、ファザーリングジャパン九州さんが古賀市を中心にやりましょうよということで、企画をしていただけたということなので、次年度以降も、来年度予算編成に向けた市長メッセージにも書いてますけれども、やはりこれを地元の企業さんにどう広げていくかっていうところをしっかりとやっていきたいなと商工会長も私も思ってますんで、民間企業との連携でしっかりと頑張っていきたいなという風に思っています。

(質問)

今日も工業部会、金融会、企業会の方と工場視察研修に行きました。その中で 1 番大きな話題が、人手不足をどうするかというのが 1 番の議題に上がっております。各企業同士、単体で考えるとなかなか難しいんですが、横の繋がりのお話の中で、人手不足どうやって乗り切ってるのかというお話の中で 1 番多いのが実はこう育児休業を含めた有給取得率あるいは年間の休業率をこれぐらい増やすことによって、働きやすい環境を維持することが人手不足の解決に繋がってるんだよという、各企業単体の取り組みではなくて、横の繋がり、あるいは横との会話によって、こうすることによってもっと人手不足が解消するんだとか、こうするともっと働きやすい会社に分たちになれるんだという意識は、今商工会にいるグループの中で、芽生えている意識になりますので、我々民間企業においてもどうしたら人が来てくれるのかに関しては、どういった人が働きやすいかというのは共通の課題だと思っておりますので、古賀市に負けずに民間企業も頑張りたいと思っております。

(質問)

昨年度の時にも委員のご参加の方がご発言されたかなと思うんですが、全般を見ますと、女性には何かこう、女性と男性も少しやっぱ表記の差を感じると言いますか、例えば、女性が自分らしくチャレンジできるようにとか、女性の求職者の存在感を高めとかあるかなと思うんですが、一方で、男性の育児参加の推進を図るなど、女性の育児参加というのは当たり前で、男性の育児参加の促進に努める、そのパパ講

座というようなことをやはり基本軸として、やはり男性は育児を手伝う、女性が主体である、もしくは働くことは男性が主体で、女性がいわゆる固定的性別役割分担意識というのを若い世代にと書いてあるんですが、今の小中学生と聞いても、このような意識というのはかなり改善されてきてるので、少し表記の部分で、私たち世代の部分っていうのは、やはりこういった意識改革というのはどうなのかな、古賀さんとどうなのかなと、ご意見あったかなと思いますが、もう一度ご確認をさせていただきたいと思います。

(回答)

女性に関わる表記、表現の部分は、ご指摘の部分含めて、もう1回事務局で精査していきたいと思います。と言いながら、おそらくジェンダー平等については、手前味噌ですけれども、全国的にもかなり前のめりな自治体だという風に自覚をしています。一方で、私は今44歳ですけれども、同級生とか同世代の女の子と話してたらですね、私が当たり前家事、育児やってることを発信していると、偉いねって言うんです。私の同世代の男性たちはまだまだ当たり前家事なんかしてない。ゴミ出してって言ったら、ゴミ袋を外に出すこと、ゴミ出しだって勘違いしてる男性がやっぱりまだ多いですね。きちんと溝から髪の毛集めたり、ゴミを部屋から集めたり、計画的に生ゴミを処理したり。こういうことがゴミを出すということですよ。食事を作ればいいんじゃないって、皿を洗って片付けるまでが料理ですよ。だから、こういう感覚が、はっきり言って、ちょっとなんか、あんまりディスっちゃいけないんですけれども、現実としてはあると思います。私が思ってるんじゃないって、同世代の女性が言って、ということは、まだまだ家事、育児参加を今の現役世代、稼働年齢層が意識できてない人があるという風に私は思ってます。ただ、20代より下は、今おっしゃっていただいた中学生たちも、ジェンダー教育効果だと思います。ちょっとその手伝うっていうことは違うと私も思いますので、そういう受け取られ方をしない表現を採用しつつも、やはり男性に特化して家事、育児当たり前にするんだよというような意識付けの施策というのはまだ必要だなという実感を私自身は持っておりまして、しっかりと手伝いじゃないと。こういったことをしっかりと前提とした社会を作れるように、ご指摘の面を踏まえながら、引き続きしっかりやりたいという風に思ってます。

(質問)

防災について質問させてもらったんですけど、質問をさせていただいたのは、薬王寺の公民館の前にも海拔何メートルって書いてあるんですね。薬王寺に住んでいて津波とかやっぱり気にすることはないんで、海拔が書いてあっても。書くべきとしたら、ここは浸水区域ですとか土砂災害警戒区域ですって書いてあった方が避難に繋がられるんじゃないかなと思って質問したんですけど、想定は難しいから数字は書けないって言われたんですけど、せめて浸水警戒区域ですよとか難しいですか。

	(回答) やろうと思えばできると思います。これ定期的な県のアセスメントによって、いわゆる想定する最大の要はハザードマップの基準となるようなものがあるんです。ただ、大きくは変わらないと経験上は思ってますけれども。一定程度土砂災害警戒区域、今なってるところが外れることはほぼ考えにくいからです。じゃあ、そこに土砂災害警戒区域だということを表示するのかとか、浸水もおそらく今出ているもの以上になることあっても、以下になることはおそくないと思います。考え方としては表示をすることができると思います。ここからは僕がどうこうではなくて、考え方で、社会の皆さんで考えてほしいなっていうただ提起なんですけれども。だから、どこまでそうやって表示しなければ人間は認識しきらんのかというところをみんなで考えたいなと思っています。いわゆる自助、共助、公助ですけども、自助意識を本来は涵養すべき局面にあると思ってるんです。大体備蓄 3 日分してない人の方が多分残念ながらまだまだ多いと思うんですね、県民でも、やっぱりあんまりこう便利になると自助意識が低下しないかとかですね。こういうところも含めてご意見いただきながら、最終的には、そもそも総合防災マップ、さっき総務部長が紹介したやつには全て網羅して書いてありますから。全戸にも配布してますし、ただ、全戸に配布された時に、それをそのまま廃品回収に出してる市民のいませんかと。それって公助の責任じゃないですよ。だから、1人1人の防災意識がどうなのかっていうところが問われる。一方でデジタルでも、防災マップが重いデータであったのを、軽量化データも合わせてホームページで掲載しています。これは市民の指摘があって掲載するようにしています。じゃあ、それを日常的に意識してくれてるのかもあると思うんです。じゃあどこまで見える表示を選択するかというところを、我々も今日いただいたご意見や、市民の皆様のいろんな防災に関わる場があるのでそういうところでもご意見をお聞きしながら判断していけたらいいのかなという風に思います。やろうと思えば、お金かければできると思います。
	(2) 第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について
	資料に沿って説明。
	(3) 第5次総合計画アクションプラン（令和7～10年度）政策・施策ごとの現状と課題の整理
	(質問) 質問と言いますか、コメントさせていただきたい。ここ、基本的に修正はないんですけども、今回ですね、指標を入れ替えている部分ですがいくつかあると思います。まちの状態、課題指標、これも成果指標ではないので、市の取り組みとこう直結してるかどうかというのは大きな議論ではないのかもしれませんが、それにしても、やはり台風の発生回数とか地震の発生回数がまちの状態とか課題指標として適切かという、それかなり疑問があるのではないかと思います。せっかくでしたら、特に出てくるような消防団の話ですとか、あるいは河川改修の、河川改修は主に県の事業ということになるかもしれませんが、そういったようなですね、要はそ

れが行政が直接関わるようなところで、現状を捉えるような取り組みをしていただけるといいのかなという風に思います。

(回答)

改めておっしゃるとおり、発生回数って神のみぞ知るというじゃないかという話だと思います。すでに設定しているところでもあるので、今ご指摘いただいたような、確かに河川改修は県なんですけれども、例えば水害が増えて家屋が浸水してるんです。近年の豪雨で、ある箇所がとかが。それってもしかしたら、排水の仕組みを構築すれば乗り越えられるものもあるかもしれない。確かにご指摘の、もう少しその市が取り組むことによって、改善を図っていくんだみたいな感じになる方がいいなと。ご指摘を受け止めてどう変えていけるかとかはあると思うんで、一旦引き取らせてください。

(質問)

二酸化炭素排出量と温室効果ガス排出量っていうことで表現というか 切り取る部分を書いてらっしゃるんですが、これは国が出してる出し方に合わせたっていうような、そういう意味でいいのでしょうか。ちょっと家庭部門に関しては、元々温室効果が見てたのを二酸化炭素にされていて、全体の削減割合とかその辺に温室効果ガスがあるっていうことでしょうか。

(回答)

まず二酸化炭素を温室効果ガスに変えたのは、第 2 次環境基本計画の中で、二酸化炭素が、二酸化炭素だけでなくメタンガスとか、温室効果ガスは色々ありますので、正確ではないかというところを変更しているところでございます。家庭部門につきましては、ほとんどメタンガスとかこういったものは発生することはございませんので、二酸化炭素で良いのではないかっていうところで整理させていただいているところでございます。

(質問)

保育士さんの人数の確保ということなんですけど、資料の 4 ページ、それに関して、実績の方の 10 ページに保育士用の宿舎を借り上げるとか、費用の部分とかで保育士の確保、業務負担の軽減と書いてるってことなんですけども、現状、保育士さんの必要人数とか、充足率、具体的な充足の人数とか確保できる人数、その辺りの具体的な対策で、もちろん今充足してるということで一時充足してるということが書いてありますけども。今後、維持ができなくなってくるということで、今非常に問題になってると思いますね。保育士の方が必要になってくるんじゃないかという気がします。具体的にその今の市内の保育所の充足とかが、もっと具体的にできれば、対策的にもできるんじゃないかなという気がします。

それともう 1 つ、先ほどから防災の件色々出てますけど、よく防災訓練とか呼びかけあって、アラートとかサイレンがあったりですね、放送があるんですけど、その辺

の具体的な大きな防災訓練というものがいいんじゃないかと思うんですよね。私は、舞の里なんですけど、実際のところやってみないと年寄りがだんだん増えてきますので、何分かいようなことも必要だろうと思います。ハザードマップ見てこの辺りですよっていうこともわかるんでしょうけど、実際のその避難場所に活かしてみる。それから、最近はペットを飼ってる人も多いんですね。よく話を聞くと、ペットは一緒に行けないからしょうがないよとか言いながら、特に古賀あたりはあまり水害で、地震の影響もあんまりないようなところがあって、結構その辺りはですね、頭ではわかっているけども、実際なんかあったときに体が動かないんじゃないかというような気がします。住民のですね、いろんな自治会とかのお話の中でよく出るようなことを述べさせていただきました。

(回答)

保育士の充足率のご指摘でございましたけれども、どうしても保育所の方は、受け入れる園児の方によって微妙に変わってまいります。加配の先生が必要な場合、看護師の資格がある方、専門職の方じゃないとってというような場合もございますので、ちょっと 参考にはさせていただきますけれども、こういった指標っていうところできちんと明記するのは難しいのではなかろうかと。一旦は検討させていただきますけれども、ちょっと難しい部分もあるのではないかっていうことは思っております。

(回答)

防災の避難訓練、おっしゃる通り、やってないと実際に頭使って体動かさないとですね。実感がわからないというのはその通りだと思います。本市における例としては、コミュニティ、ほぼ小学校校区単位のコミュニティで、その防災訓練、避難訓練をやっていただいているケースがあります。古賀東小学校区、千鳥小学校区、花見もしています。校区コミュニティの単位ですというのが、実は有効だと私も思っていて、ただ、そのためには、自治会、校区コミュニティ内の自治会で連携してやっていただいている状況になってますので、自治会の理解がいるということですので、今日出たご意見はもちろん全庁的にも共有はしていくんですけども、自治会、各区の意識とかやる気も含めて関わってきますので、こういったお話が出たということは、まちづくり推進課を通じてですね、舞の里の区長さん方にも伝えて、これも区長さんたちにだけ言ってもあれなんで、みんなで気運情勢が大事だと思うので、そういったところはサポートを防災担当だったりまちづくり推進課だったりができますので、今ピンポイントで舞の里のお話が出ましたけれども、しっかり、まだそういった訓練ができてないエリアへのアプローチというところも、ご意見踏まえてですね、さらにやっていきたいと思っています。

(質問)

全般通してですね、自治会の区長をちょうどやってるので、こういった全部の政策、施策を実行の仕方として、やっぱりそういった、なんて言うんですかね、ヒエラルキーというか組織体みたいな、そういう行政区とか校区とかっていう単位を使って

施策を実行していくのが有効なのか、実際、私が区長会とかで40何人の区長の方々の意見を集約するとか、施策を進めていくこと自体が1つなんかDXがないことには。要は私も職業柄IT系のコンサルとかやってるんで、例えば市の方々、サイボウズとか使ってると思いますけど、このぐらいの規模で情報共有しようと思ってそういったツールをといた時に、古賀市の6万人全員でグループウェアを使うわけにはいかないと思うので。さっき市長がおっしゃってた校区単位が、非常に重要だと思うんですけども、校区単位で施策をやっていくにも、じゃあ校区でどれぐらい進捗があるかが上がってくるとか、私は区長会に出ていて思うのは、その区長の方から連絡が来ないとか、区長によってはすぐに連絡取れないとか。いろんなそういったところの、その施策を実行する上での組織体の難しさっていうのがどうしてもあるのかなと思ひまして、なんか抽象的な質問で恐縮なんですけど、実際こういった施策を実行していくときの組織力と言いますか、そのものの課題感っていうのがあるんじゃないかなと思ひまして、それをやる上での、さっき最初にあったDXみたいなそういう人材含めての施策が整うことで、ここにある施策がよりこう加速していくと言いますか、そういう戦略観があるんじゃないかなと思うんですけど、なんか抽象的で恐縮ですがなにか大きい視点でやっていければなと思っています。

(回答)

1つ例示してお話キャッチボールした方がいいと思います。今出ていたまちづくりをしていくにあたって、いろんな主体と行政が連携しないと、実効性というか実現可能性は高まらないというのが基本的な認識です。その中の重要な主体の1つとして各自治会、各自治会長に我々は行政区長を委嘱してるということでほぼイコールになっています。今までは、例えばゴミの分別収集とかで、行政区単位でうちはやってもらってますけれども、こうやった協力関係を、市役所だけではできないけど、行政区にとの連携でこれを実現していると。サービスの充実ですね、やってるということがあつたりしますと。それとか、回覧板もそうですね。自治会の回覧板に役所が伝えたい情報を載せて併せて回してもらってるということですね。市役所だけじゃできないので、こういうのを旧来からやってきているという視点から、行政区との連携、さっきの防災ももちろんそうなんですけれども、例えば子どもの見守りとかもそうかもしれないですね。介護人材が不足する中で、どうやってそういった介護人材になる地域で支え合う体制を作るかとか、結構多くの施策でそういった自治会イコール行政区との連携で実効性が高まるものはあるんじゃないかなと。私も今お聞きして、いつもそう思ってるなっていうところがなんとなく理解できました。それを進めていく上では、紙でやる、そんなことでほぼもう無理ですね。ですから、デジタル技術の導入というところで、具体的に言うと、今日来てびっくりしましたけど、半分以上の方がパソコンでデータを共有して臨んでいただいている。これ実は今過渡期です。我々はみんなもうパソコン同じ組織なので、端末も全部みんなが持って配備して、同じ端末、サイボウズもそうなんですけど、同じネットワークの中で情報共有して、やり取りが同じ組織だからできます。ペーパーレス、うちは徹底してるんでそうなんですけど、今の課題は、こういう会議、我々と同じ組織に属していない皆さん

	と、その状況をどうやって作るかと。一気には無理じゃないですか。パソコン持っていないとかですね、特にポータルなものを持ってない方もいらっしゃるわけで、それは強制できないんで、もちろん紙ご希望の方にはきちんと紙でというのをやってるところなんです。いつかはみんながパソコンで、ペーパーレスでやればいいなということで、徐々に。外部に関わる、特に市民の皆さんのイベントとか、行政がやるけど市民に関わるイベントとかで、急にペーパーレスを徹底したらハレーションがおきるので、そこは徐々に今やろうとしているというところです。何が言いたいかというところ、だから、その区長会と区長の皆さんと、例えば、何かの端末とかも配備してネットワークを共有するところから、それだったら予算ができますんで、そういう形から何かをやらなければいけないのか。ただ、乗り越えられるものもあると思いますので、今投げかけていただいているところは、おそらくこれからの社会で行政が市民サービスをより良くしていく上ではとても重要な視点だと思ってお聞きをしておりました。またお知恵をください。
6. その他	事務局：事後質問の案内